

令和7年度 京都府立須知高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【目指す教育】</p> <p><b>1 育成を目指す資質能力に関する方針(このような力を育てます)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主・規律・誠実の精神を持った社会性を身に付け、夢に向かって何事にも挑戦する意欲や力を育成する。</li> <li>・地域に学び、地域や地元企業と連携した取組を通して、探究心を身に付けるとともに、課題解決に向けた実践力やコミュニケーション能力を育成する。</li> <li>・高い志を持ち、自ら考えて行動し、主体的にリーダーシップを発揮して地域社会を牽引する力を育成する。</li> <li>・生涯にわたって主体的に学び続け、社会に貢献できる資質の高い人材を育成する。</li> </ul> <p><b>2 教育課程の編成及び実施に関する方針(このような教育活動を行います)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本三大農業教育発祥の地「京都府農牧学校」以来の歴史と伝統を引き継ぐ。</li> <li>・京丹波町をはじめとする地域住民・企業等と密接に連携した探究活動を取り入れ、主体的・協働的に学ぶ機会を多く設ける。</li> </ul> <p>【食品科学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「土から食卓までを結ぶ」農業の6次産業化の学習として、「食の宝庫」京丹波町の地域特性を活かし、地域や企業と連携した実践的な学習に取り組む。</li> <li>・「食のスペシャリスト」を目指し、より専門的な知識・技術の習得を目指す。</li> </ul> <p>【普通科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数・習熟度別授業、進路に応じた選択科目、ICTの活用、きめ細かな学習サポートなど、個に応じた学びを保障し、丁寧に対応する。</li> <li>・「総合的な探究の時間」では、地域や自己の進路・興味を着眼点にテーマを設定し、課題解決に向け主体的に活動することで実践力・応用力の定着を図る。</li> </ul> <p><b>3 入学者の受け入れに関する方針(このような生徒を待っています)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育内容に興味・関心を抱き、専門分野の学習や探究学習に積極的に取り組むことができる生徒</li> <li>・本校で学んだ知識や技術を、将来にわたり地域社会の発展に活かそうとする意欲がある生徒</li> <li>・夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自分の未来を切り拓こうとする生徒</li> <li>・高い志を持ち将来の進路について明確な目的意識を有し、最後まで努力できる生徒</li> <li>・学習、部活動、生徒会活動等に積極的・主体的に取り組むことができ、学校生活全てに強い活動の意欲を持つ生徒</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒の可能性を伸ばす個別最適な学びと地域とつながる協働的な学びを推進するとともに、府教委指定「京都フロンティア校（地域創生推進校）」を軸とするきめ細かな学習指導、生徒指導、進路指導により、個々の生徒に応じた学力向上、希望進路実現を図れた。</li> <li>◆校内の教職員研修として、「スタディサプリ」についてICT研修、スクールカウンセラーによる発達特性についての研修、総合的な探究の時間についての研修、大学入試制度についての進路研修、様々な性質についての人権研修、性暴力等ハラスメント研修などを実施し、教職員資質向上の機会を設けた。</li> <li>◆令和6年度京都フロンティア校（地域創生推進校）として、地域を支える人材育成を理念に、地域貢献や地域との連携を積極的に推進するため、探究活動では京丹波学の取組、芸術総合では、蹴鞠や竹細工、和知太鼓の取組を通して地域の伝統文化・工芸について学び、食品科学科では、地元食材を活かした加工品開発やウィードの森に関する研究など、地域資源を活用した取組を実施し、フロンティア成果発表やマイプロジェクトアワード、地域の発表会などへ参加し、本校の取組を広く発信することができた。</li> <li>◆食品科学科の特色を活かした専門的な教科活動が、数多くの実績を残すとともに、地域の活性化や環境保全に貢献することができた。（アルチザンチーズアワード銀賞、ジビエの研究及びメンマプロジェクトが京都府学校農業クラブ連盟大会プロジェクト発表入賞、京都市内5つ星ホテル連携 等）</li> <li>◆食品科学科の学習の一環として行っている菊作りでは、日本菊花展全国大会にて高い評価を受け、最高位である「高松宮妃記念杯」を賜る快挙を成し遂げた。</li> <li>◆今年度は、普通科「総合的な探究の時間」と食品科学科「課題研究」の合同成果発表会を実施した。また、食品科学科3年生「課題研究発表会」を学校外で実施し、本校の関係者の皆様に食品科学科の教育活動の成果を紹介することができた。</li> <li>◆少人数ながら各クラブは盛んに活動しており、男子ホッケー部においては4年連続全国インターハイ出場、9年連続全国選抜大会出場するなど活躍した。</li> <li>◆京丹波町担当課の協力により、2年生の就職希望者を対象にしたインターンシップを実施することができた。生徒は、勤務に関わる体験的な活動を通じて職業に対する理解と関心を高め、将来の職業について考える機会となった。</li> <li>◆広報活動では、SNSによる迅速な情報発信を図るとともに地元中学校と連携した取組を推進することができた。</li> <li>◆開校記念日講演会は、本校の誇るべき先輩から生徒・教員・同窓会・PTAが一同に講演を拝聴することにより、母校須知高校での繋がりを実感させ、今後の個々の目標に向かい、力強く歩む一助となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆スクール・ポリシー、スクール・ミッションを基に組織的かつ計画的な教育活動を推進するとともに更なる魅力化に向けて見直す。</li> <li>◆個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌と連携して行うこと。</li> <li>◆家庭学習習慣の定着を図るとともに、自分の将来に向け、高い志や目標を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力をつける指導をすること。</li> <li>◆地域からの信頼関係を深め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</li> <li>◆規範意識やモラルの高い、心身ともに健康な生徒の育成を推進すること。</li> <li>◆部活動の活性化に向け、加入率を高めること。</li> <li>◆京丹波町と連携した生徒募集活動等を強化し学校の活性化や魅力化に向けた取組を推進すること。</li> <li>◆京丹波町立中学校からの志願者を増やす取組を一層推進すること。</li> </ul>	<p>【学校経営主題】</p> <p>「社会の変化に対応した地域とつながる魅力ある学校づくり」</p> <p>【重点項目】</p> <p>2 学校経営の重点事項</p> <p>(1) 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす時代の変化に応じた個別最適な学びの充実</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習指導要領の趣旨に対応した教育内容を充実させるとともにICT教育を一層推進する。</li> <li>②個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導、学習指導等を関係分掌との連携を強化する。</li> <li>③家庭学習習慣の定着を図り、自分の将来に向け、高い志を持ち、進路に対して積極的に挑戦する力を育成する。</li> <li>④教科横断的な「総合的な探究の時間」の指導体制の充実を図る。</li> </ol> <p>(2) 地域と共に歩み、信頼され、魅力ある学校づくりの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①京丹波町をはじめ地域の関係機関と連携した協働的な学びを展開する。</li> <li>②農業の6次産業化を推進するための企業や研究機関等との連携を強化する。</li> <li>③大学等の高等教育機関と連携して各教科・科目の学習内容を充実・深化を図る。</li> <li>④創立京都府農牧学校150年記念式典に係わる組織を整備し、次年度実施に向けた準備を進める。</li> </ol> <p>(3) 生徒指導と部活動等の充実による学校の特色化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①本校の生徒としての自覚を持ち、誇りある行動をとる態度を育成する。</li> <li>②全ての教育活動を通じて、全教職員が一体となり、生徒の人権意識や規範意識のある生徒を育成する。</li> <li>③部活動、農業クラブ活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性を育成する。</li> <li>④ホッケー部員の全国募集と全国大会入賞を目指して学校の特色化を推進する。</li> <li>⑤茶道、古典、和知太鼓など伝統文化に係わる教育活動の継承発展を図る。</li> </ol> <p>(4) 戦略的な生徒募集活動と情報発信のさらなる強化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中学生のニーズに応じた生徒募集活動を一層推進するとともに教育ニーズの把握に努める。</li> <li>②地域の他校種と更なる連携した取組を推進する。</li> <li>③学校ホームページ、Instagram、須高通信、須高だより、農場だより、学校紹介動画などを活用し、本校の特色ある教育活動を発信し、生徒募集につなげる。</li> <li>④京丹波町と連携した生徒募集活動を推進する。</li> <li>⑤報道機関（新聞、京丹波町ケーブルテレビ・広報誌など）への積極的に教育活動情報を発信する。</li> </ol>

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
教務部	学習指導要領の趣旨に対応した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の在り方や指導方法等を教科横断的に共有し、観点別評価やICTの活用をより充実させる。</li> <li>・公開授業や情報共有を通じて、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、学習指導の改善や個別最適な学習指導を実践する。</li> </ul>	B B	<p>観点別評価等の評価基準は各教科に委ねているが、教科主任会議をはじめとする各種会議を通じて、教育課程の在り方や、生徒個人個人の課題の共有を図ることができた。一方で、公開授業期間での授業参観等による指導力向上への取組は、十分効果的であったとは言えず今後改善の余地もある。</p> <p>ICT活用については教職員研修等を通じて先生方のデジタルツールの効果的な活用の促進に努めた。</p>
生徒指導部	生徒の主体性を育てる取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会本部や各専門委員会が中心となり、生徒が主体的に行事を運営できるよう支援及び指導を行う。</li> <li>・校則や指導の方法について、生徒会本部と話し合いを持ち、必要であれば見直しを図る。</li> </ul>	B A	<p>生徒会本部が中心となり、球技大会や須高祭などの行事を楽しみながら実施することができた。また、学校生活をより過ごしやすくするためにアンケートを実施し、「防寒着の着用」について見直しを図ることができた。</p>

分掌教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
進路指導部	進路指導の充実	・進路指導部内で情報を共有することで、進路指導部として一貫した指導を実践する。	A	A	進路に関わる情報を進路部内や学年団と共有し、生徒の進路指導を充実させることができた。先輩から後輩へと受験の体験を伝えるための合格体験記を『進路の手引き』に掲載することができた。探究活動が受験に強く結びつき進路実現を果たした生徒も出てきたが、探究と進路との関連を意識できない生徒も一定数いたため、今後もその関連付けを生徒達に伝えられるように工夫する必要がある。
		・各分掌(とくに学年団)と協力し、進学・就職に関する進路情報をできるだけ多く生徒や教職員(とくに担任)へ提供し、生徒それぞれの将来設計や進路実現をサポートする。	A		
保健部	生徒の健康状態を適切に把握し、早期発見、支援に繋げる。	・学校等欠席者・感染症情報システムなどを活用し、体調不良者や欠席者を正確に把握する。	B	B	毎朝の欠席連絡の確認をスタディサプリも活用しながら、把握に努めた。一方、その情報をもとに生徒の支援に繋げる部分は、他分掌と連携しながらさらに進める余地が残った。SCとは毎回のコンサルテーションを通じ、情報共有を頻繁に行うことができた。
		・教務部、担任と情報共有しながら欠席、遅刻状況の確認を迅速かつ、円滑に行う。	B		
人権教育部	人権学習の推進と人権意識を高める取組の推進	・各学年ごとに人権学習を実施する。基本的な人権を正しく理解させ、学校生活の中で人権を意識した行動ができるように指導する。	A	B	各学年の人権学習を実施することができた。人権学習を通してお互いの人権尊重の思いを持つことができるように指導した。人権委員会では、世界人権デーに合わせてポスター・標語を作成し展示することができたが、参加者が少なかった。
		・生徒会人権委員会の活動を充実する。	C		
農場部	食品科学科の特色を活かした取組の推進と地域連携の充実	・課題研究を中心として、地域の小中学校や関係機関、企業との連携をより一層推進する。	A	B	それぞれのコースで産学官民と連携した連携を進めることができた。各取組みの区切りごとに見直しつつも、単年度で終わらせることなく、継続した取組みになるように進めていきたい。各コース2つ以上にエントリーすることはできたが、すべてを成果につなげることができなかった。 放課後や長期休業期間を中心に生徒たちが農場で活動する姿が見ることができた。次年度は上級生が下級生に指導し自走する姿を目指していきたい。
		・各種発表会やコンテストに積極的に参加し、日々の学習成果を内外に発表していく。(各コース2つ以上にエントリー)	B		
第1学年部	基礎学力の定着および向上を目指す。	・日々の授業に集中できるよう、学習環境を整える。	A	A	授業時間を大切に、しっかりと学習に向き合えた生徒が多かった。また、放課後等に質問に向かう生徒が増えるなど、自主的に学習に取り組む姿勢も身に付けることができた。一方で、スタディサプリ等の活用については特定の生徒のみに留まり、全体での利用はできなかった。
		・学習用端末やスタディサプリの効果的な活用法を身に付ける。	B		
第2学年部	進路実現に向け、自覚ある行動ができるようにする。	・日々の授業や家庭学習を大切に、学力を向上させる。	B	B	進路目標を明確にし、授業だけでなく家庭での学習にも努力した生徒が多かった。しかし、進路目標が明確でない生徒の中には、学習習慣が身に付けられなかった生徒もいた。
		・心身の健康管理に努め、適切な生活習慣を身に付ける。	B		
第3学年部	希望進路を実現させる。	・進路実現に向けて家庭学習や自主学習の定着と充実を図る。	B	B	個人面談や三者面談等により、それぞれの希望進路に応じた適切な情報提供やアドバイスで丁寧な進路指導を心掛けることができた。一方で、学習全般に関しては、意欲の向上が全体的に低く課題が残った。検定試験に挑戦する生徒が3年生になって増えた。
		・模擬試験や資格取得に挑戦し自分自身の可能性を広げる。	B		
事務部	学校経営という視点を持った予算の執行	・特色ある学校づくりを進めるため、各分掌・教科や各種事業担当等と積極的に連携を図り、財政的な面から学校運営の一翼を担う。	B	B	各分掌・教科と連携し、適切な予算執行に努めた。老朽化した施設設備の維持修繕と、学校の特色化・学力向上推進のための環境整備を、限られた予算の枠で両立していくことが継続的な課題である。
		・学力充実・向上のための予算の重点的な措置を行う。	B		
国語科	「ことばの力」を基軸とした基礎学力定着と学力伸長	・実社会に必要な国語の知識・技能の定着を図り、言葉によって、他者の考えや思いを適切に理解したり、自身の考えや思いを効果的に伝える力を養う。	B	B	小テストや小論文の指導などを通して、実社会に必要な知識・技能の定着を図ったが、自身の考えや思いを伝える力を十分に養うには至らなかった。 また、「話すこと・聞くこと」の活動は授業内で行ったものの、指導内容を体系化して指導することはできなかった。また、クラスによって指導にばらつきが出てしまうのも課題である。 学習用タブレットを各教員が積極的に利用したり、学習補助的なプリントを用いたりするなど、基礎学力の定着に向けて取り組むことはできた。一方、支援の必要な生徒の実態に合わせたサポートについては、まだ改善の余地がある。
		・思考力・判断力・表現力の向上を目指して、互いの主張や論拠を吟味し、考えを広めたり深めたりといった「話すこと・聞くこと」に関する授業を展開する。	B		
地歴公民科	進路実現に向けた学力向上を目指す。	・主体的、対話的で深い学びにつながる授業実践の工夫をする。	B	A	資料を活用した思考力を問う問題を作成することができた。今後は対話的な授業ができるように工夫をしていきたい。
		・暗記だけでなく思考・表現力を培うことができるよう、定期考査の工夫をする。	A		
数学科	学力『保障』	・ロイロノートやスタディサプリ等ICTを積極的に活用して、学び直しや基礎学力の定着を図る。	A	A	スタディサプリを活用して宿題や基礎学力の定着を図ることができた。また、講座別授業により、個別最適な支援を充実した一方、家庭学習習慣を身に付けさせることに課題が残った。
		・少人数授業を活かして、個別最適な指導や支援を充実する。	B		

分掌教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題	
理科	観点別評価に基づいた授業および評価を行う。	・3つの観点を基に、学習活動を多面的な視点から評価できるような授業を構築する。	A	A B	身の回りの事象と学習内容のつながりを意識した授業展開を実施する中で、多くの生徒が主体的に学習に取り組み、それを3つの観点から評価することができた。一方で、授業時数の関係で対話型授業等に関しては多く実践することができなかった。
		・対話型授業や探究活動を授業に積極的に取り入れる。	B		
保健体育科	健康の増進と体力の向上	・自己の体力に適した運動負荷により、自ら体力を向上させる意識を持たせる。	B	B B	全生徒が体力の維持・向上を図ることができた。自ら体力を向上させる意識を持たせるまでにはいかなかった。 選択種目については、自らが計画して安全に取り組み、運動の楽しさを味わわせることができた。
		・運動内容を自らが計画し、安全に協力して取り組めるようにする。	A		
芸術科	粘り強く取り組む力や挑戦する力を培い、成功体験を増やす	・生徒の長所を積極的に言葉にして伝え、生徒の自己肯定感を高める。	B	B B	合唱や作品発表は達成出来た。自己肯定感を高める声かけは全員にできなかった点が残念。
		・演奏発表や作品展の機会を作り、多くの人に学習の成果を披露する。	A		
英語科	基礎学力の定着と進路実現に向けた学力の伸長	・ICTを効果的に活用し、基礎・基本の理解促進を図る。	A	A A	ロイロノート等を活用して、生徒の興味関心を引き出しながら授業展開を行うことができた。
		・少人数授業の利点を生かし、ていねいで個別最適な指導を充実させる。	A		
家庭科	生活を主体的に営む力の育成	・生活の中から題材を選び、授業と生活の関連性を感じられる授業を展開する。	A	A B	習得した知識や技能を普段の生活に生かし、よりよい衣食住生活の充実に向けた活動を行っていた。
		・基礎的知識・技術を習得し、自立的な生活力の向上につなげる。	A		
農業科	専門的な知識と技術を身に付けさせる。	・ICT機器を活用した具体的で分かりやすい授業を展開する。	B	B B	各科目の座学を中心にロイロノート等を活用する機会が増えてきている。ネットワークの環境やICT機器の未整備により実習での活用を図ることができていない。
		・ICT機器を活用した学習成果の蓄積を目指す。	B		
情報科	情報社会を生き抜く能力を育成する。	・情報通信技術の利便性を理解し、円滑に活用する量力を育成する。	B	B B	PowerPoint等を用いたプレゼンテーション資料の作成を通して、コミュニケーションの手段としてICT機器を効果的に活用することができた。一方で、個人情報などのSNSの活用については指導が不十分だった。
		・個人情報の扱いや知的財産権の保護など、社会的責任を伴う問題の理解と自覚を養う。	C		
総合的な探究の時間 (1年)	非認知能力を向上させるための探究の基礎を養う。	・インターネット・図書・新聞等の活用やグループワーク等をとおして、必要な情報を収集する力を身に付ける。	A	B B	1学期は「ちょこプロ」、2学期は「しらべてガッテン」、3学期はマイプロミニバージョンに取り組み、情報の収集方法や整理・発表の仕方などの探究基礎を学ぶことができた。農牧学校資料館を素材にした広報のアイデア出しも主体的協働的に行うことができた。図書の活用がほとんど「しらべてがってん」の時だけになってしまったので年間を通じて活用できるよう指導したい。主体的に調べたことを行動に移すアクションの部分が不足しがちな点と個々の進捗度に応じた指導の在り方について今後改善していく必要がある。
		・「総合的な探究の時間」の諸活動に主体的・協働的に取り組み、自らの思いや考えを適切に表現する力を身に付ける。	B		
総合的な探究の時間 (2年)	課題の発見・問題解決の能力や自己表現力を身につける。	・生徒が自ら立てた課題の解決に向けて、主体的・協働的に学習を進める。	B	B B	今年もマイプロを実施できた。これにより自己について深く考えるきっかけをつくることができた。進路選択に役立つテーマを設定し取り組む生徒も数多く見られた。他府県の高校生との交流も行き、自身の探究を振り返る機会を得た。一部の生徒が地域に出て主体的に活動しコンテスト入賞も果たせた。授業の中でしか探究しない生徒やインターネットだけで情報を収集しようとする生徒への指導改善に努めたい。
		・情報収集・整理・分析やグループワーク・プレゼンテーション作成等を通して、自身の考えを表現し、まとめていく機会を作る。	B		

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
学校関係者評価委員会による評価		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本菊花全国大会における高松宮妃記念杯の受賞やホッケー部の活躍、地域と一体化した取組など、素晴らしい取組の数々が夢へ踏み出す切っ掛けとなっている。少人数で大変丁寧な生徒対応が、学力の定着となり進路実現に貢献している。そうしたことが結果的に、充実した高校生活へと繋がっているおり、生徒は自分の考えを明確に持ち自信を持って学校生活を過ごしている。</li> <li>2 アズビル山武財団奨学金についても大変魅力的でありがたい。これらの活動をもっとアピールやPRして欲しい。</li> <li>3 少人数で丁寧な授業で生徒も集中して学習に取り組めている。伝統文化の取組も盛んで生徒は大変熱心に組んでいる。食品科学科の取組についても、生徒が主体的に活動している姿が印象的であった。</li> <li>4 ホッケー部についても、全国募集など様々な生徒募集はありがたい。継続した広報が必要である。</li> <li>5 令和8年度には京都府農牧学校創立150年となるため、より積極的な活動を期待している。</li> <li>6 生徒との交流会を通して大変素晴らしいと感じた。目的が明確で自らが行ったことや考え等が、自分の言葉でしっかり伝えられている。課題研究の取組も専門性のレベルが高く驚いた。この発表会は学校外で実施されたが、多くの人に生徒の頑張っている姿を見ていただいたり、知ってほしい。そのことが生徒募集に繋がるのではないかと。</li> <li>7 京丹波町唯一の公立高校として、地元や地元中学校と連携した取組は今後も継続してほしい。</li> </ol>		
次年度に向けた改善の方向性		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スクール・ポリシー及びスクール・ミッションに基づき、組織的かつ計画的な教育活動の推進を図ること。</li> <li>2 個々の生徒の実態に応じた、きめ細かな生徒指導および学習指導を、関係分掌と連携して行うこと。</li> <li>3 家庭学習習慣の定着を図るとともに、将来に対する高い志と明確な目標を持ち、進路に積極的に挑戦する力を育成する指導を充実させること。</li> <li>4 規範意識やモラルの向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成を一層推進すること。</li> <li>5 部活動の活性化に向け、加入率の向上を図ること。</li> <li>6 京都府農牧学校設立150年の節目にあたり、これまでの歩みを振り返り、歴史と伝統を継承しつつ、本校のさらなる発展につながる記念事業となるよう、実行委員会とともに取り組みを進めること。</li> <li>7 地域との信頼関係を一層強め、地域と共に歩み、地域に貢献する教育機関としての役割を高めること。</li> <li>8 京丹波町と連携し、「須知高校魅力化プロジェクトビジョン」の具体的な推進を図ること。</li> <li>9 京丹波町立中学校からの志願者増加に向けた取組をさらに強化すること。</li> </ol>		